

会 議 録

会議等名	平成 23 年度 第 4 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 23 年 11 月 22 日 (火) 10:00 ~ 11:00
場 所	政策審議室
出席者	委嘱状交付者：大治委員、成瀬委員、古河委員、牛村委員、谷川委員 門倉(正)委員、石川委員、斉藤委員 (8 名) 欠 席 者：諏訪委員、小島委員、門倉(久)委員、古谷委員 (4 名) 事 務 局：清水市長室長、二見市長室次長兼政策経営課長、 告原企画政策係兼行政経営係長、大黒屋主事(書記)
<p><会議進行：二見次長></p> <p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>平成 17 年度に行政評価制度を導入して以降、より効果的な行政評価がされるよう試行錯誤を重ねてきている。市の事業は多岐に渡っており全ての事業を評価の対象とすることは難しく、限られた事業を効果的に評価していただくため外部評価委員の皆様が評価しやすい体制づくりを考えている。来年度は機構改革により現在の政策経営課と財政課が統合され、「外部評価→政策に反映→予算作成」という流れが一本化する。よりわかりやすい事業内容や委員の皆様への説明体制になると思っている。</p> <p>社会情勢的には財政的に逼迫している自治体も多く見受けられ、海老名市はまだ健全財政だが常に危機感をもって行政改革に臨んでいく必要があると感じている。機構のスリム化や来年度から始まる窓口の総合窓口化など市の事業が変化を続けている中では、課題があれば解決を行っているが、事業のスクラップアンドビルドが徹底されていない面もあると感じている。市政の運営に当たっては常に都市経営の観点を意識しており、時には大胆な改革も行うことが、市民の皆さんにとって住みやすい海老名づくりにつながっていくものであると考えている。外部評価に当たっては、是非、市民目線からの積極的な発言をお願いしたい。</p> <p>行政機関としての海老名市はPR不足の感があり、中学生までの医療費助成事業などは県内で突出しているが市民への周知は行き届いていない。外部評価の存在も同じであり、今後は広報を通じて中間意見として公表していくことなども考えられるのではないかとと思っている。皆様にはこれから2年間、ご協力をよろしくお願いしたい。</p> <p>4 委員自己紹介</p> <p><市長 所用のため退席></p> <p>5 事務局紹介</p> <p style="padding-left: 2em;">清水市長室長より事務局紹介</p> <p style="padding-left: 2em;">二見市長室次長兼政策経営課長、告原係長、本杉主査(欠席)、大黒屋主事</p>	

6 委員長の選出及びあいさつ

- ・委員より事務局案の提示意見あり。
- ・事務局より、外部評価委員会発足時からのメンバーであり前委員長でもある大治氏が適任とする案を提示。
- ・参加委員全員一致で大治氏に委員長決定。

○大治浩之輔委員長より

外部評価に関わって四期目になる。評価の仕方については試行錯誤を重ねながらより効果的な評価方法を検討してきており、前回の評価時には新たに担当部署から直接ヒアリングを行う機会を設けるなど、評価の手法はだいぶ確立できてきていると感じている。委員それぞれの特性や経験を活かした有効な論議になるための捌き役として、皆さんから意見を伺いながら進めていきたいと思う。

7 副委員長の任命

大治委員長より任命

- 成瀬源子 副委員長
- 諏訪文男 副委員長

<会議進行：大治委員長>

8 議 題

(1) 海老名市の行政評価について

配布資料2により事務局から説明

<主な質疑応答や参考意見>

【委員】 評価結果をまとめる時期が6月頃をめどにしているということで前回より1ヶ月ほど早まっている。評価にかける時間が短くなってしまうのか。

【事務局】 現在のスケジュールはあくまで案であり具体的な作業スケジュールは次回(2月)の委員会の中で決定していただくことになるが、評価結果を次年度予算に的確に反映させることを考慮するとこの時期にはまとめることが望ましいと考えている。ただし、担当部課からの評価結果提出期限も3月中に早めているので、前回よりも早めに評価作業に取りかけられるのではないかと考えているのでご了解いただきたい。

【委員】 評価に当たっては評価基準の設定が重要になってくると思う。民間ならば費用対効果が最優先だが、行政ではそうとも限らない。また事業によっても基準とすべきポイントが異なってくることも考えられる。その辺りはどのように調整をつけて評価を行っていくのか。

【事務局】 基本的な評価の概念については、配布資料の平成23年度行政評価結果の中で示させていただいている通りである。これを踏まえた上で、具体的な評価作業を進めていただくことになる。

【委員長】 事務局が示した基本概念に基づき、実際の委員の話し合いの中で事業の

性質等に応じて個別具体的に基準を設定しながら評価を行っていくことが適当だと考えている。

【委員】 評価結果で事業廃止という評価をすることは、市の施策や総合計画そのものの否定につながってしまうことにはならないか。

【事務局】 外部評価委員会の中で評価するのは総合計画等に基づいて実施されている個別の事務事業についての意見レベルのものなので、各事業の廃止の可否等は市側での判断に委ねられており、また施策自体の廃止意見でもないので、総合計画そのものの否定につながるものにはならない。

【委員】 承知した。基本となる総合計画に各事務事業が適合しているかの評価が行政評価の役割であるという理解で評価に望んでいきたいと思う。

【委員長】 かつて、施策そのものも評価の対象とするよう試みた時期もあったが、まず評価すべきは具体的な事務事業であるという結論に達した経緯がある。外部評価委員会としては、あくまで市民目線として事務事業を評価することが重要であり、また事業仕分けとは異なり終わった事業に対する評価であるため進行中の事業に即座に反映されるものではないという外部評価の性質を心得ながら、評価作業に臨んでいければと思う。

【委員】 内部評価結果を踏まえて外部評価を行うものと考えていたが、同時並行で進んでいくとのことなので、各評価で基にする資料などに齟齬が生じることなどはないのか。

【事務局】 基にする資料はどちらも同一の行政評価調書である。外部評価はこの調書とヒアリングによる評価となる。以前は、担当部課評価→内部評価→外部評価という流れで行っていたが、PDC Aサイクルの効果を発揮させるためにはスケジュール的に内部評価結果を待ってから外部評価を行うことが難しいため現在の流れになっている。

【委員長】 評価の進め方については今後も議論を重ねて必要に応じて適宜変更を加えていくことも考えている。

【委員】 評価のスケジュールからすると、決算前に評価を行うということか。

【事務局】 そのような形になる。正式な決算は評価の時期より後になるが、事務レベルでは決算見込みとして現実に近い担当部課評価が可能であるので、それを基に外部評価を行っていただくことになる。

その他不明な点等があれば、随時事務局へ問い合わせさせていただきたい。

(2) その他

事務局より

次回の委員会は2月頃を予定している。詳細については後日、日程調整を含めて連絡をさせていただく。

9 閉 会